

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1115 2013年2月号

四国森林・林業研究発表会を開催

60回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から21課題が発表されました。

【詳細2頁】



森林技術センターが考案・発表した低コスト小型囲いワナ

四国森林・林業研究発表会を開催



一月二四日、四国森林管理局大会議室において、「平成二四年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

一月二四日、四国森林管理局大会議室において、「平成二四年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

まず、新木局長から、「今回発表される課題は、森林整備、木材利用を始め、治山、林産物、獣害対策、自然環境保護、そして森林環境教育など多くの今日的課題について研究の成果を発表して頂くものです。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくりなどに反映されるこ

とを期待します。」と挨拶がありました。

六〇回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から二一課題（特別発表を含む）が発表されました。特に、造林の低コスト化・育林に関する発表が六課題、また、ニホンジカによる食害対策として囲いわなによる捕獲に関する発表等もあり、早急に取り組むべき課題であることを再認識させられました。また、香川県三豊市立下高瀬小学校、香

美市立片地小学校、土佐清水市立幡陽小学校等から、学習活動の一環として取り組んでいる内容について発表があり、会場から多くの拍手が送られました。

特に、今回の会場で目立ったのは、署の森林官等からの質問でした。自署等の取組みの現状と併せての質問には聴講者にも好印象を与えていました。

発表を終え、独立行政法人森林総合研究所四国支所の外崎支所長を審査委員長とする審査委員による審査の結果、四国森林管理局賞として七課題（最優秀賞一課題、優秀賞三課題、奨励賞三課題）、また、（一社）日本森林技術協会理事

長賞、（一財）日本森林

業振興会会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた四国森林管理局森林技術センターの発表は、シカ捕獲に用いる「囲いわな」における、低コストで軽量化等の取組が高く評価されました。なお、今回の発表課題と審査結果は、九頁のとおりです。

受賞おめでとうございませう。

（写真は、最優秀賞及び優秀賞を紹介しています。）

【最優秀賞】

囲いわなによる

シカ捕獲試験（経過報告）
森林技術センター



佐竹業務係長（左側）
鷹野森林技術普及専門官（右側）

【優秀賞】

「旅するチョウアサギ

マダラの学習を通して」
香美市立片地小学校四年生



受賞に喜ぶ片地小学校の
児童の皆さん（四年生）



受賞した中村治山第一係長

【優秀賞】
「剣山地域における自然景観に
配慮した治山工事について」
徳島森林管理署



受賞を喜ぶ高知工業高校の生徒の皆さん

【優秀賞】
高知工業高校
野球部の部室製作
高知県立高知工業高等学校
建築科三年生



一月二〇日、林野庁において、平成二四年度国有林野事業業務研究発表会(三部門)が開催されました。今回の発表会には、四国森林管理局から四課題を発表しました。

○森林技術部門では「工事箇所における写真撮影の方法について」を局治山課徳満設計指導官、四万十森林管理署猪迫治山第二係長が発表し、日本林政ジャーナリストの会会長賞を受賞しました。また、「囲いわな」によるシカ捕獲試験」を森林技術センター鷹野森林技術普及専門官、佐竹業務係長が発表しました。○森林ふれあい部門で「段の谷山国有林を活用した地域活性化について」を佐喜浜の源木を育てる会田村拓氏、阿野田直人氏、安芸森林管理署吉田森林ふれあい係長が発表し、林野庁長官賞(最優秀賞)を受賞しました。

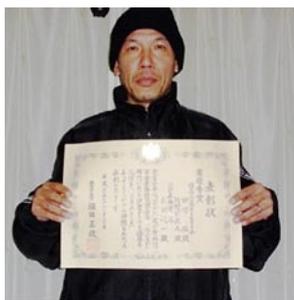
今後とも、森林・林業に対する多様なニーズに対応していくための技術開発等の取組に期待しています。受賞おめでとうございます。

●森林ふれあい部門
林野庁長官賞(最優秀賞)

「段の谷山国有林を活用した地域活性化について」



佐喜浜の源木を育てる会
阿野田 直人 氏



佐喜浜の源木を育てる会
田村 拓 氏

●日本林政ジャーナリストの会会長賞

●森林技術部門



四万十森林管理署
猪迫治山第二係長



局治山課
徳満設計指導官



安芸森林管理署
吉田森林ふれあい係長

職員が一日先生に

高知市立愛宕中学校で

〈指導普及課〉



一二月二〇日、高知市立愛宕中学校において、「わくわくWORK講座」が開催されました。これは、生徒たちに、仕事をする意義

やその重要性等について、警察や弁護士、新聞記者、アナウンサーなど一六名が講師となつて、学年・学級別に授業を行うものです。当局にも依頼があり、一年生(三四名)を対象に「森にまなぶ」と題して「森林の働き」について授業を行いました。



授業の様子

初めに、生徒から木への漢字を発表して黒板へ書いてもらい、また、イチヨウの葉っぱを見せながら黄葉のメカニズムや手作りの資料等により間伐の意義と大切さ等を勉強しました。生徒からは「あらためて

木への字の持つ意味がわかった」、「森林のはたらきを見直した」等の感想が寄せられました。

授業終了後には、教職員と講師、保護者等で反省会が行われ、教職員からは、地域に在住している身近な講師から、生徒たちが様々な分野の話を聴けたことの意義や大切さなどが話されました。講師からは、生徒たちの聴く態度の良さや質問の内容などが話され、教職員等と講師間の交流も深めました。

指導普及課では今後とも、地域への貢献に資するとともに、森林環境教育の推進を図るため、今回のような学校からの要請に積極的に協力していく考えです。

各地のたより

四万十川を

ミサゴが飛翔

〈ふれあいセンター〉



が四万十川にその雄姿を映しています。

ミサゴは頭と下面が白く、黒い眼帯が特徴で、最近では飛来するミサゴに魅せられ事務所の窓際に双眼鏡を備えて観察。十川地区では四万十川に架かる電線に留まり、川面を見つめて獲物を狙う姿がたびたび見かけられ、出張時の楽しみの一つとなっています。豊かな四万十川はミサゴをも育んでいるようです。

ミサゴ



また、昨年は高知新聞「声ひろば」に「野鳥が少なくなったのでは・・・」との投稿が載り、同じ思いを抱いていましたが、この冬、隣家のクロガネモチや国道

沿いのサルズベリには、わずかに残る実を求めてメジロやヒヨドリが群がってきており安堵しています。

当センター周辺は、やがてウメやサクラの開花とともに春を告げるウグイスの歌声が聞こえてきます。



森林からのおくりもの
へふれあいセンター

一月九日、愛媛県松野町立松野東小学校から依頼を受け「森はともだち講演会」で講義を行いました。

最初は「講演会」の依頼ということから、「堅いお話をしないといけないかな？」と戸惑いましたが、そこはふれセン、やはり森

大きな椎茸できるかなあ？



林学習は「元気に、楽しく」でなければと、森林からの贈物として「シイタケの駒打ち体験」をしてもらうことにしました。

秋の味覚を与えてくれる森林の役割を学びつつ、椎茸の育成を楽しみ、そして最後はお腹も満たされるという一石三鳥の企画です。

まずは、「森林の働き」

について復習の意味も含めて簡単に講義を行いました。松野東小学校は愛媛県教育委員会の「森はともだち推進事業」の指定校として平成二三、二四年度と森林学習を行っており、こちらからの質問にも良く答えました。

本日のメインイベント「シイタケの駒打ち体験」が始まると、講義で静かな様子は一転し、初めて使う電動ドリルや奇妙な形のシイタケの種駒相手に大騒ぎしていました。

高学年がクヌギやナラの原木にドリルで穴をあけ、その穴に低学年が種駒を木槌等で打ち込むという分担作業でしたが、お互いの作業も気になって仕方がない

ようでした。

また、この日は保護者参加型の講演会でしたので、ご自慢の腕前を披露されている方もおられました。

出来上がったシイタケ原木は各自が家に持ち帰り、来るべき収穫を待つようです。果たして結果は…？こちらも学校（児童）からの回答を聞くのが楽しみです。

なお、子どもたちが、楽しみながらも一生懸命に作業をしている様子は、松野東小学校のウェブサイトにもアップされています。

躍る木工教室



へふれあいセンター

二月一日、高知県大月町立大月小学校の一、二年生の児童六七名を対象に木工教室を開催しました。

一年生はクマのストラップと小枝で作った鉛筆「モックン」を、二年生はクマとフクロウの置物を作りました。

初めに、一年生は紙芝居で森林の大切さや役割を、二年生は木材の特徴や利用方法を学習しました。

その後の、木工教室は対象が低学年のためノコギリやクラフトナイフなどの刃物は使わず、予め職員がサ